

暴風雪災害や

交通災害に注意

暴風雪時は情報収集で対応を

積雪寒冷地にとって、冬期間は、他の季節と違った自然災害や、交通事故の危険があります。

防寒着など冬道運転のための必需品を備えておくほか、暴風雪時には、気象情報に注意し、外出を控えるようにしましょう。

ドライバーは、夏以上に安全運転を、また、歩行者も周囲の状況に十分に気を配って歩くことを心がけましょう。

自然災害に季節は関係ありません。平成25年12月に50cmを超える降雪がありました。異常降雪時には、役場内部さらに関係機関と連携して除雪を実施し、交通網の確保などの措置を講じていきます。さらに降雪や暴風雪の被害状況については、訓子府町地域防災計画に沿った対策本部を設置し、避難、救出などの対策に当たります。

「不要不急」の外出を避け

暴風雪時の道路状況は、視界不良や吹きだまりによる立ち往生などの災害が発生する恐れがあります。平成25年3月上旬にオホーツク管内を襲った暴風雪の被害では、ホワイトアウト（地吹雪による視界不良）が原因となり、人命を奪ってしまう大災害となりました。

暴風雪時の基本は「不要不急」の外出を避けることが重要です。外出が急務な場合や外出している場合は、気象情報や道路状況などを十分に把握しながら対応することが大切です。

雪と氷 道路に潜む危険

凍結路面や視界不良に注意

平成25年1年間の交通事故発生状況は、物損事故は発生したものの、人身事故はゼロでした。しかし、今年は、1月から11月17日までで4件の人身事故が発生し、7人がけがを負いました。冬季は、暴風雪ではなくても、道路状況が悪化している場合が多くなり、交通事故が多発する時期です。

凍結路面によるスリップをはじめ、車の運転中に地吹雪や激しい雪に見舞われ、対向車が見えなくなる場合があるほか、道路脇の雪山から突然車や歩行者が出てくることもあり「見えないは、危ない」を念頭に、徐行や安全確認徹底などの注意が必要です。



吹雪に備えて

- もしもに備えて、次のことを心がけておきましょう。
 - 冬道の必需品
防寒着・長靴・手袋・スコップ・けん引ロープなど
 - 出発前は、テレビ、ラジオ、インターネットなどで道路情報や気象情報に注意を払う
 - もし吹雪で動けなくなったら
雪でマフラーが埋まると、排気ガスが車内に逆流し、一酸化炭素中毒の危険性がありますので、エンジンを切ってください。
- また、エンジンをかける場合は、マフラー付近をこまめに除雪することが重要です。

冬季の停電に備えて

- 電気を使用しない暖房器具
例：電池式のポータブルストーブ、カセット式のガスストーブやガスコンロ
- 衣類等
例：防寒着や毛布、手袋、カイロなど
- その他
例：携帯型携帯電話充電器やラジオ、懐中電灯やマッチ、ろうそくなど

冬道運転の心得

- 黒っぽく見える路面の「ブラックアイスバーン」に注意
 - ブレーキは夏場の2倍以上手前から
 - 緩い坂道も油断しない。カーブ手前で減速しましょう
 - 早めの出発や余裕の運行計画などで無理のないスピードを保持する
 - 横断歩道も路面が滑りやすいので、歩行者は安全確認も含めて、ゆっくりと歩いて横断するなど注意することはたくさんあります。
- 冬の交通安全は、夏以上に細心の注意と情報収集が必要です。

停電時の対応も重要

雪害により停電が発生した場合の対応ですが、町は北海道電力との情報交換、情報伝達を緊密にし、停電状況の把握や町広報車などによる住民周知、町内会・実践会の方とも連携を密にしていこう方針です。

また、雪害により停電や帰宅が困難な場合などで避難を必要と判断した場合は、情報を収集し地域の避難所などへ避難してください。